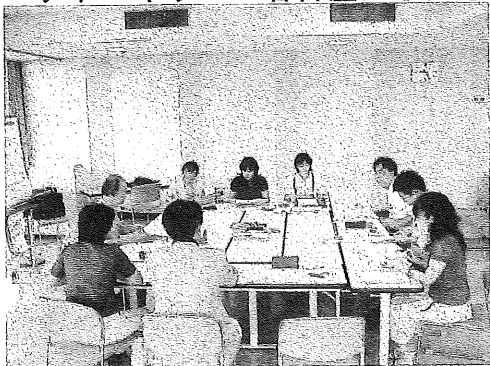


最初に基準を知らせておくので絶対評価にもなる。指導即評価。自分の変容が見えるようにするには、チャートを4観点で見えていく。学習を積み重ねると個人内評価もできる。ループリックを作ってみようと思った。

④教科・総合的な学習の課題作りの悩み解決

蒲町小 齊田淳一 岩切小 佐藤初美
ファシリテータ 畠山厚子 千田博史
アドバイザー 名古屋女子大学教授 加藤幸次



加藤幸次先生を囲んで、時間が過ぎても熱く語り合いました。

◇「総合的な学習の時間」ならではの課題とは？

―「命を支える『食』と『農』」の実践を通して考える―
仙台市の齋田教諭からの3つの悩みの話題提供を受け、活発な意見交換がなされた。齋田教諭は、社会科の学習と関連させながら命を支える『食』と『農』という単元を設定し学習を進めている。子どもたちは、3年生から米作りに取り組んでいる。作業中心では学習の深まりが望めないと心配している。

悩み1「食」の領域でなぜ米作りなのか総合的な学習の時間のねらいを達成するには、この課題でよいのか。

悩み2 子ども一人一人の学びを支える手だてや教材について

悩み3 ウェビングを取り入れたが、中心の言葉は何がよいのか。

- ・米作りは日本の文化ではないか。米作りにまつわる文化も切り離せないテーマではないか。
- ・自然を守ろう、祖先から伝わっている合理性など、自分の生活に意味を見いだして農業をやっている人がいる。生き方にふれたい。
- ・農業に携わる家庭の子は少ないが、ふるさとは米作りに命をかけていることにふれないと、生き方が弱くなる。
- ・ウェビングは諸外国でも使われている。イメージマップで評価できる。
- ・自分の課題にするには、やれそうという見通しがないと子どもは動けない。子どもが読める資料と人の紹介、計画表も用意したい。
- ・課題を作ることも学習に組み込んでいきたい。

◇水泳学習の悩み

仙台市の佐藤初美教諭から、気温が高い日が少ない地域ならではの悩みと学習カード作りの話題が提供された。地域性の違いに驚きながら話し合った。

悩み1 気温が高い日が少ない地域における水泳指導

悩み2 子どもが自分で課題を設定し、進んで学習が進められるような学習カードを作りたい。

悩み3 認定基準表は、これでよいのか。

・呼吸ができるまでの段階を細かく示すと課題が明瞭になる。

・床に座るなど、沈むことを教えるのも有効である。

・パディを君で、子ども同士で教え合う方法もある。

・学年目標を示すと、めあてを作りやすい。

⑤中学校・高校の総合的な学習の悩み解決

アドバイザー 東京学芸大学教授 浅沼 茂

資源（新聞紙）、技術（定規、鉛筆、折り紙のおり方）が不平等に配分された先進国、中開発国、開発途上国（グループ）の間で、製品（折り紙）を世界銀行に売ることのでられる富（お金）の多さを競う開発教育用に考案されたゲームである。

体験した感想をいえば、経験者が信義や道徳を無視してなりふり構わずゲームに勝とうとする姿勢に疑問を持ち、残念ながら気持ちよくこのゲームを終えることができなかった。

開発教育の目的は、現在の国際社会に様々な課題が存在することに気づくだけに留まらない。これからの国際社会が持続可能な社会の創造をめざす共生原理に基づく必要があることに気づき、その方法を模索しようとする意欲を育成することにあるはずである。

実際の授業に活用するのであれば、対象年齢に応じた目的とルール、内容をよく吟味し、十分な時間を確保して実施する必要があると感じた。（文責・谷口）



全国個性化教育研究連盟 第2号
平成19年9月29日発行

編集責任者 事務局長 奈須 正裕
編集 広報部 中田 泰志

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉
庶務部長 佐久間 茂和
〒114-0003 東京都北区豊島 8-27-2-914
tel03-3912-2797
e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp
全国個性化教育連盟ホームページ
http://zenkoren.com/

全国個性化教育研究連盟

発行

平成19年9月29日

発行責任者

加藤 幸次

全 個 連 会 報

第2号

8月4日（土）5日（日）の二日間、東北仙台の地で毎年開催されている全国個性化教育研究連盟全国大会が開催されました。本年度は、東北個研の立ち上げとも重なり、大変熱のこもった大会となりました。

今号は、全国大会特集です。

大会日程

第1日目 全体会 8月4日（土） 宮城県民会館

9：00 受付

9：30 開会行事（大会議室） 東北個性化教育研究会会長 菊地修治
全国個性化教育研究連盟会長 加藤幸次

9：45 基調講演（大会議室） 「個性化教育が大切にすべきもの」
明星大学教授 高浦勝義

10：55 講演（大会議室） 「個が育つ授業」東京学芸大学教授 浅沼 茂

13：10 講演（大会議室） 「先人に学ぶ～教育の不易と流行～」
元仙台市立東二番丁小学校長 小堀恒男

14：20 パネルディスカッション 「教師達が授業作りの技を磨き合う学校」
コーディネーター 上智大学教授 奈須正裕
パネラー 名古屋女子大学教授 加藤幸次 宮城教育大学准教授 吉村敏之
山形市立滝山小学校長 永瀬 克

16：15 ワークショップ紹介

第2日目 ワークショップ 8月5日（日） 宮城県民会館

9：00 受付

9：20

【個が育つ授業作りの技を磨き合うワークショップ】

①学ぶ意欲を引き出す学習環境作りの悩み解決

加茂小 高橋 清 人來田小 竹内加奈子 折立小 千葉容子
ファシリテータ 三井 裕 篠原洋治 石澤壽子 アドバイザー 上智大学院 佐野亮子

②少人数指導・TT・習熟度指導の悩み解決

将監中央小 森 直 台原中 今野浩平
ファシリテータ 白石光彦 稲葉俊一 アドバイザー 岐阜聖徳大学教授 成田幸夫

③個の育ちに生きる「学びの見取り」の悩み解決

東六番丁小 熊谷裕行 松森小 高橋義尚
ファシリテータ 近澤裕子 江川久美子 アドバイザー 明星大学教授 高浦勝義

④教科・総合的な学習の課題作りの悩み解決

蒲町小 齊田淳一 岩切小 佐藤初美
ファシリテータ 畠山厚子 千田博史 アドバイザー 名古屋女子大学教授 加藤幸次

⑤中学校・高校の総合的な学習の悩み解決

アドバイザー 東京学芸大学教授 浅沼 茂

11：30 閉会行事



基調講演「個性化教育が大切にすべきもの」

明星大学教授 高浦勝義先生

高浦先生は、全国個性化教育研究連盟がこれまで大切にしてきた「個性化教育」の目的・内容・方法・評価について改めてお話しされた。

目的としての「一層の個性化」は「個性化」の概念を明確にしてすすめられてきたが、それは「生きる力」そのものがめざす力であった。「ゆとり教育」は「生きる力」の育成という方針のもとで継続されてきた。ゆとり教育＝生きる力の育成が今日における国際化傾向でさえある。

「個別化＝個性化」授業の創造に向けて、「個人差」に着目して「指導の個別化＝学習の個性化」のプログラムが作られ、完全習得学習、順序選択学習、課題設定学習、課題選択学習などが開発された。

J・デューイは問題解決思考（問題解決学習）において「段階」「操作」「態度」の三位一体の構造にて成立する人間の最も望ましい思考であるとしている。この問題解決思考は子ども一人でも集団でも

てもらふことの重要性を改めて感じた。

また、終わりに高浦先生と成田先生が質問され、私たちは「どういう学びを目指していくことが個性化教育なのか」ということをきちんと考え、共通理解していく必要があると感じた。(文責・盛)

【個が育つ授業作りの技を磨き合うワークショップ】

①学ぶ意欲を引き出す学習環境作りの悩み解決

加茂小 高橋 清 人來田小 竹内加奈子 折立小 千葉容子
ファシリテータ 三井 裕 篠原洋治 石澤 壽子
アドバイザー 上智大学院 佐野 亮子



学習環境に着目したこの分科会では、提案者の先生が授業や学級経営のために作成した実際の掲示物を持ち寄り、参加者全員でそのアイデアを共有したり、具体的に改善していくというワークショップが行われた。

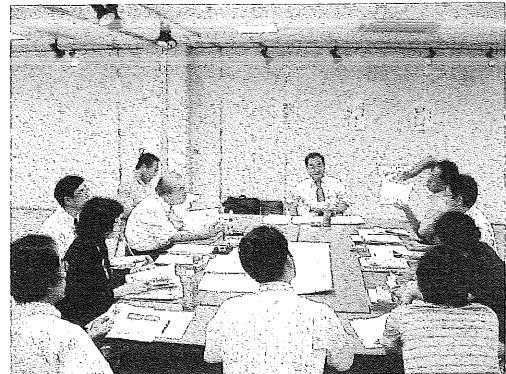
まず、加茂小の高橋先生は、5年生のマット運動の指導での前転動作のイラスト図の掲示について提案された。前転の動きのポイントを理解するために、授業で子どもが発見したことを書き加えながら、子どもと共に掲示物を豊かにしていくアイデアがだされた。

次に、新任2年目で3年生を担当している人來田小の竹内先生は、学級づくりに役立つ掲示について提案された。男女の隔たりなく子どもたちが協力できる学級にするために、お互いのよいところを認め合う楽しい掲示の仕掛けや、担任以外の教師からも褒めてもらって自信をつけていく掲示の工夫が出された。

最後に、特別支援学級を担当している折立小の千葉先生は「様々な実態と学び方をする子どもたち一人ひとりが、自分のすべきことを理解し、安心して楽しく学習できるような環境」を目指した掲示を提案された。写真(視覚化)と文字(言語化)を併用した様々な掲示物の工夫は、特別支援学級にとどまるものでなく、子どもの意欲を引き出す学習環境として大いに参考となった。(文責・佐野)

②少人数指導・T T・習熟度指導の悩み解決

将監中央小 森 直 台原中 今野浩平
ファシリテータ 白石光彦 稲葉俊一
アドバイザー 岐阜聖徳大学教授 成田幸夫



小学校と中学校の2つの事例をもとに、成田幸夫先生のご助言をいただきながら話し合いが進みました。

〔事例1〕小学校4年生算数(将監小学校 森直先生) ストーリー教材「ヨネーン村のたからをさがせ」は、森先生の「子どもたちの意欲を最後まで高めていく工夫」が随所に見られる大作でした。こうした教材作りを通して教師自身教材を見る力がつくという話が出ました。

〔事例2〕中学2年生数学(台原中学校 今野浩平先生) 「個が育つ」少人数指導を進める中での悩みと対策について詳しく発表されました。生徒の学習への取り組み方の改善、学習内容の定着度の細かい実態分析や指導方法の様々な工夫など大変参考になりました。そして、今野先生のご苦労と熱意が伝わってきました。

成田先生からは、「はげみ学習」の話をはじめ個に応じた指導のあり方について色々ご助言いただきました。また、「一人学び」についても一度振り返ろうというお話もありました。時の過ぎるのが短く感じられるほど、充(文責・五十子)

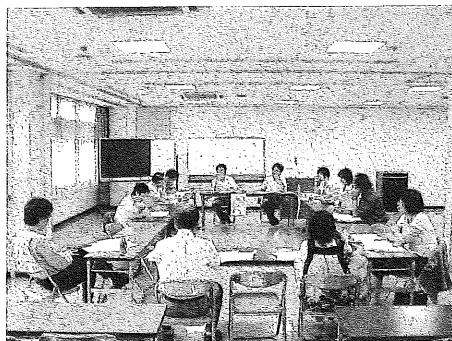
実した有意義なワークショップでした。

③個の育ちに生きる「学びの見取り」の悩み解決

東六番丁小 熊谷裕行 松森小 高橋義肖
ファシリテータ 近澤裕子 江川久美子
アドバイザー 明星大学教授 高浦勝義

高橋先生は、国語科の自作の「見取りの判断基準」、熊谷先生は、総合の自作のループリック、その活用実践という精力的な提案があった。それらの提案について高浦先生から、指導案の書き方から、ループリック作りについてなど詳しく助言があった。

ループリックは学びの見取りのために作るのであるから、1時間の中に、評価は1つがよい。総合の評価基準も4観点で作ることが望ましい。評価基準は、子どもの具体的な活動の姿をイメージして書くこと。子どもと一緒にループリックを作ると子どもが伸びる。また、子どもの自己評価力を伸ばすことになる。



可能であるし、複数の教師の協力でも可能であろう。いわゆるティーム・ティーチング(TT)である。わが国では昭和40年代にTTの研究・実践がなされ、その後、従来の一斉指導とは別に「個に応じた多様な教育」を実現するために進められた。また、「きめ細かな指導」のための小(少)人数授業もスタートした。

緒川小学校は、本連盟の草分け的な存在で、卯ノ里小学校、池田小学校とともにオープン建築を生かしたプログラムや指導法がなされた。教室間、教室と廊下間の壁がない学校は、学校・学年・教師の間、さらに学校と地域、保護者と地域の人々との間に「壁のない学校教育」に取り組んできた。授業以外にも、学校生活にゆとりとうるおいをもたらす空間としての活用が継続されている。

(文責：石澤)

講演「個が育つ授業」東京学芸大学教授 浅沼 茂先生

「個が育つ授業」とは、体験や活動を通して身に付けることが大切であるということや、論理的な思考力の育成も自らの触ることのできる感覚を経験することが必要であるということを次の3つを例に挙げて説明された。

① ルソーの『エミール』では、自分が一生懸命やった労働に誇りをもつことで、他者の労働に対しても敬意を持つことのできる大切さ。自己愛は「もの」の起源がどこから、誰からといったすじみちを考えることから始まる。

② 宮城県大崎市立松山小学校の小野寺勝徳先生の食育の授業実践から。プロのイネと子どもたちのイネを比較し、一本植えの生育のよさからエネルギーの問題に思考を深めた。(文責・岩崎)



講演 「先人に学ぶ～教育の不易と流行～」

元仙台市立東二番丁小学校長 小堀恒男先生



小堀恒男先生は現在、宮城県の教育者の研究をしています。今回は二人の教育者の歩みについて語りながら、教師としてのあり方について講演されました。

1. 教育は人なり

教師というのは、人としてどうあればいいのかということ、二人の先人の考えをもとに考えていく。

2. 二人の教育者

錦織玄三郎と及川平治は、重なる時代を生きた宮城の教育者である。

・錦織玄三郎(安政6年～大正3年)

宮城県内の草創期の近代学校の基礎をつくった。また、石巻尋常高等小学校長に就任時には「現職を以て終生の事業と為さん」の気概で、校内の秩序確立や児童中心主義を導入するなどした。明治42年には教師心得「當校教員注意事項」を策定している。

・及川平治(明治8年～昭和14年)

単級教授の経験から課題意識を持って、大正新教育運動の先駆者の一人となった人である。子どもが常に自力で学ぶ「動的教育」を目指して、「分団式動的教育法」を提唱した。

3. 先人に学ぶこと

「當校教員注意事項」の全17項の中で最も重要なのは、第14項の「品格を保て」である。教師は、人としての品格が重要である。(文責・西野)

パネルディスカッション「教師達が授業作りの技を磨き合う学校」

コーディネーター 上智大学教授 奈須正裕先生

パネラー 名古屋女子大学教授 加藤幸次先生

宮城教育大学准教授 吉村敏之先生

山形市立滝山小学校長 永瀬 克先生



永瀬先生が学校づくりで実践されていることをもとに、教育史や現在の教育問題と重ねながらお話が進んだ。教師間や保護者との間など、色々な関係の中でコミュニケーションが必要だということが、様々なお話の中から浮かび上がってきた。

「教師が授業づくりの技を磨きあう学校」として目指していることとして、永瀬先生は5つのことを挙げられた。誰よりも校長が子ども理解に終始すること、メモ魔になること、研究授業では必ずハードルのあるものに挑戦すること、言語環境を整えること、全ての教育活動は授業であること、そして、もう一つ大事なものと、親に説明することとを挙げた。吉村先生は、斉藤喜博が参観日を設け、親が授業を見る目を養うことを心がけていたことを重ねられ、加藤先生は社会が学校に押し寄せてきており、親が納得することが大切になってきていることを語られた。親の教育観を変え、自分の子だけでなく、関わりの中で子どもが育つことを理解し